

特定非営利活動法人



# ネパール・ミカの会

平成16年夏号 NO.23 6.20発行

NPO法人 ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 tel 042-791-0602

## ネパール治安の状況と私達の立場

NPO法人ネパール・ミカの会  
理事長 齋藤 謹也



「ナマステ！ご無沙汰しています。お元気でいらっしゃいますか。こちらは毎日デモばかりで大変です。学校建設の事は9月から始めようかなあと考えています。…」(4月22日付け)

これは、ヌルブ・ラマ氏からのメールの書き出しです。5月11日頃来日されますので、会員の皆様には、またお世話になります。

しかし、毎日デモという報告から始まるメールは、首都カトマンドゥでさえ落ち着いていないという状況があり、心配していますがどうにもなりません。ただ一日も早い治安の安定を願うだけです。

この状況は、他のネパール人から聞いても同様であり、又、入手しうるニュースも厳しい世情を伝えていることなので、会員の皆様はじめ、ネパールに関心のある方々にとっては、非常に困ったことでもあります。

さて、私達ネパール・ミカの会ではラマ君の来日を待ち、相談しながら総会で平成16年度の事業計画を正式決定することとなりますが、昨年度未実施事業を含め、本年度も『変わらず』ゆっくりと、確実に、ネパールの子供たちの為に現地の要望にもとずいて実施することとしております。

幸い日本人をはじめ、外国人(アメリカを除く)には危害を加えないとマオイストも表明しています。この友人達の苦しい現状の中でこそ、私達の変わらぬサポートの姿勢が大切かと思

っています。

ワーキング・チルドレンへの支援やカーストの問題もありますが、就学率の向上や女子教育の充実に向けて、半歩でも前に進めたらよいなあと考えております。

その為に、順調に推移している国内事業をさらに活発化させると共に、会員の拡充に努め、足元を固めていきましょう。



# さくらまつりバザー

松浦 陽子

4月3日(土)～4日(日)、大賀藕絲館入り口でバザーを行いました。

3日(土)はお天気に恵まれ尾根録道のさくらも満開で美しく、16年度初めてのバザーに皆張り切って売り子さんに徹していました。今年はネパール大使が多忙のためおいでになれませんでした。3月の支援旅行で仕入れて来た民芸品も早速並べて品数も大分賑やかになりました。又、バザーの度に思うのですが会員の皆さんは勿論の事、色々な方々から寄付して頂く品々がとても貴重な売上につながっております。

本当に有り難い事です。この場をお借りして御礼を申し上げます。

4日(日)は残念ながら悪天候の為バザーは出来ませんでした。今年も昨年同様一日だけのバザーになってしまいましたが、会員の皆さんの頑張りで充分満足の行く成果が上がりました。

“お疲れ様でした。”

## ラマさん滞在記

大谷 安宏

父上の逝去や政情不安も一向に好転の兆しがみえない上、日本語学校の運営も課題を抱えているとの情報に、はたしてラマさんは今年の定期総会に参加できるのか、招聘状を作りながら心配であった。身元保証人を理事長にお願いしEMS便で発送して貰った。

5月11日、成田空港へ青沼さんの愛車で和田さんとで迎える。半袖のTシャツでいつもの笑顔で到着。急遽開催の臨時理事会で現地の状況報告、滞在日程など確認などであったが、本音は(財)ひろしま祈りの石から督促されている建設校変更の手続きを、ラマさんの来日を待ち、現地の状況の確認と理事会の変更承認が欲しかった。

13日、成瀬くりの家保育園の子供たちに挨拶を済ませたラマさんと、虎ノ門の(財)ひろしま祈りの石を訪れ、現地の治安の関係上建設校を変更する旨を報告、申請書を提出し、常務理事の変更承認の内諾を得ることができた。昼どきで賑あう銀座のウインドショッピングで女性物の小物に興味ありげに覗いている姿に妹想いのラマさんを見た。それとも婚約者へ。知人の日本画の個展では大きな作品に驚き、遠来の客のネパール語の署名に作者は大いに喜んでくれた。(株)リコー大森事業所へ計測器の協力のお礼と支援の旅の報告し、ラマさんの訪問に記念撮影と今後の支援協力を現地ではどのような機器を要望しているかを情報提供して欲しいと要望される。パソコン教室に引続き、加藤さんの手配してくれた有志による歓迎会は夜遅くまで賑やか盛り上がった。

定期総会では流暢に現地の状況報告や支援に対する感謝の意が述べられた。新年度審議事項も滞りなく承認された。現地の治安の一日も早い安定化を向かえて計画通りの進められることを切望すると共に、ラマさんの校舎建設等のご苦勞に会員の感謝の気持ちを込めての懇親パーティーであった。





ラマさん来日に合わせて泊り掛けの懇親会をやりたいとの要望が以前よりあったが、今回、中野さんがまとめ役として段取りを進めてくれた。宿泊先の手配、参加者の増減などご苦労の結果、大阪から駆けつけた梶氏を含めてミカの会として発足以来初の一泊懇親会であった。生憎、天候には恵まれなかったが、新緑の箱根路の旅にラマさんも大いに満足してくれた。

18日から大倉山記念館での小生らグループ作品展開催に、搬入、展示作業に汗を流し、3年前ネパールスケッチツアーのメンバーと久し振りに再会した。

昨年の関空からの新幹線での町田入りで自信がついたのか、今年も日本語学校関係者を訪ね河口湖へ、国分寺、千葉、新宿など1人で移動していた。町田周辺などはこもれび堂から町田駅まで歩くこともあり、どこの店が無くなったとか、あそこが変わったとか裏道まで実に詳しい。滞在中の連絡手段として、濱崎さんの携帯電話を昨年同様貸してもらっていた。「ハマサキ・ラマさんですか?」「ハイハイ」と滞在中の連絡には大いに役立ち感謝をしていた。ラマさんの立场上ネパールとの連絡も多いとの事だが、街中の国際電話機を探すのにはネパールよりも不便だと嘆いていた。

今村さんの準備で「西遊記」で教育支援の旅に参加の先生方等を含めた送別会は箱根懇親会やら支援の旅のエピソードで和やかに話は尽きなかった。

ラマさんは日本食の大抵のものはOKである。特に好きなものは「トロ」である。帰国を明日に控えて、もう一度「トロ」「わさび」を味わって貰おうと何人が集まった。新鮮な刺し身にたっぷりのわさび、山菜の天ぷらに大満足。メンバーからは今後の活動に向けて次々とアイデアが飛び出し、ラマさんもジャンモさんの言う「壊れたテープレコーダ」のように止めどない。暫くの別れを惜しむかのように、和やかな有意義なひと時であった。

帰国日、最終の事業計画の確認やら給付金先への報告情報交換などを打合せ、お世話になった築田寺をあとに成田に向けてのバスに乗り込んだ。

ラマさんの来日は2000年の文部省関連も含めて今回で7回目となる。99年には妹ジャンモさんと共に、02年には兄ニョティーもミカの会を訪れて、懇親を深めてくれた。今年めでたく医学部を卒業するジャンモさんとの再来日を期待したい。従来に来日ルートของロイヤルネパール機材不足からの発着遅れを避けるため、バンコク~シンガポール経由ルートにしたと言う。シンガポールでの一泊となるが便数も多く確実だそうだ。今後の中間調査、支援の旅のルートとして検討することも必要であろう。今年度の事業計画のメインはシリ・アマリ小学校の建設とシリ・マズワニ高校の新設である。また、ルンビニの教員研修の発足やタンセンでの図書支援など、多岐にわたる支援活動を現地で一手に引き受けているラマさんのご苦労は本当に大変であると思う。これまでの現地での活動と尽力に敬服し、心より感謝したい。

「ごくろうさま」「ありがとう」未だ治安の安定しない現地での支援活動は慎重な状況確認と安全最優先をもとに進めてほしい、また、現地へのバイクでの山道の長距離移動など、まずは安全第一を最優先として頂きと思う。

わが会のモットーは「ゆっくりと ゆっくりと」「でも着実に前に進もう」だか状況に応じては「しっかりと立止まり」「状況を見極めて歩む」ことも肝要だと思う。

## ケニヤ マサイマラの自然に触れて

青沼 義信



私は、歴史的な建造物など世界的遺産と言われる人工物にはあまり興味が無く、ついでに観てくるくらいである。これはそれらが造られた時の権力者や、宗教的な絡みがほとんどに在る事と、これらのほとんどは、せいぜい3千年から5千年前のもので、地球の歴史、宇宙の歴史から観れば一瞬の間のものでしかない。そのような遺産が歴史的に貴重である事に異論は無いが、私は何十億年、何百億年がもたらして変化して創られた自然や動植物に接し自分の存在を確認する事の方が好きである。

そんな事から山歩きなどをしていたが、エブリディーサンデーになってからは、体力的に出来るうちに地球の人工ではない本当の自然に触れたい、と機会を見ては海外に出かけるようにしている。

今年3月、5年前に行きそびれてしまったケニヤに行き、自然の中でのびのびと暮らしている生き物達に会ってきた。5日間滞在したのは「マサイマラ国立保護区」で、朝夕3時間づつ計10回のサファリドライブを楽しんだが、動物達の生き生きした姿には目を見張るばかりで、特に毛並みのつやは、動物園で見る動物達とは比べものにならないほどつややかで、動物園などで飼われている動物達や、家庭で飼われているペット達がかわいそうになってしまった。

2月から3月にかけては動物達の子育ての時期で、子供達の姿はぬいぐるみがチョコマカとじゃれあっているようで、いつまで観ていても飽きず、運転手兼サファリガイドから「もういいかい？」と発進を催促される事が度々であった。

ゾウ、キリン、バッファローなどの大型草食動物も迫力はあったが、なんと言ってもライオン、チーター、ヒョウ（一瞬しか見られなかった）などの肉食動物は堂々として、ライオンのオスなんかは近づきがたい威厳すら感じてしまった。

メスは育児に疲れているのか、子どもにじゃれつかれようが、踏まれようがのんびりとお休みタイムを楽しんでいて、その格好に思わず笑みがこぼれるような楽しい気分になってしまった。

ライオンやチーターの狩は獲物が気づき逃げてしまったので、狩の場面に遭遇する事はなかったが、TVでしか見ることができなかったチーターの食料庫である木の枝に、食べかけのインパラが引っかかっていたり、一部食べられたバッファローの子どもの死骸にワシが食らいついていたり、食べ尽くされて骨だけが散らかっていたり、野生動物の生きる厳しさをまざまざと見せつけられたような気がした。

草食動物は集団で群れているのが多く、草を食んでいる姿は心を安らげてくれるようだ。中で面白かったのはイボイノシシだ。走るときに、今まで垂れていた尻尾が、ぴんと垂直に立って走る姿は、思わず笑ってしまう楽しい姿だった。

意外に可愛かったのは、ハイエナだった。目がくりくりしているがなんとなく寂しさが漂っていて、TVで見る残忍な憎たらしい姿の認識を改めてしまった。

キリンの食料はアカシヤの葉っぱだが、アカシヤの鋭いとげを口に入れても怪我をしない？

の中の構造に不思議を感じてしまった。

マラ川にカバとワニを見に行ったが、カバの大集団大小50頭余には度肝を抜かれてしまった。5年前ジンバブエのリバークルーズで見たカバだって20頭ほどでびっくりしてしまっただが、50頭以上の集団では餌が十分に摂れるのだろうかと思わぬ心配をしてしまった。シマウマ、インパラ、トムソンガゼル、トビなどは用心深く、30メートル位までしか近づけなかったが、マサイマラ保護区内の飛行場の待合所(かやぶき屋根の東屋の中でオスライオン2頭が寝ており、5メートル位まで近づいても熟睡しているのには「さすがライオン」と言わざるを得ない姿だった。

もうすぐ飛行機が着くのにどうするかとワクワクしながら観ていると、飛行機が着き乗客が降りてきて気がつきびっくりしたらしく、突然私達の車めがけて「グオウ、グオウ」とうなり声を上げながら突進してきたのには驚いた。シャッターをきるのも忘れて思わず固まってしまった。(動物も狙われた時にはこうなってしまうのかなと後で思った)ライオンが方向転換し走り去って安心したとたん、お互いのとった行動に同乗者と大笑いしてしまった。

ホテルでマサイ族のダンスショーがあり、独特の飛び上がりダンスを見せてくれた。着物はカラフルで派手だが、踊りは派手さが無くシンプルなものであった。

サファリドライブの合間にマサイ族の部落を訪問した。猛獣よけのため、トゲのいっぱいついたアカシヤの枝を組み合わせて造った塼を部落の回りに張り巡らせているが、自然のものを材料とした生活の知恵と言えるようだ。家は土で

牛の糞も壁の一部となっておりネパールにもみられる様な造りだった。子供達の目はここでもきれいに輝いており、ネパールと変わらない。ギアナ高地(ベネゼラ)でもそうだった。



今後われわれが暮らす地球を歩き、その姿を出来るだけ観たいと思っているが、それと同時に、世界の子どもの目の輝きがいつまでも曇る事の無いように祈っていきたい。

## カナダ、スキ - ツアの記

土田 嘉武

### 前説 概要と旅の経過

今年の2月28日から8日間カナダの『ウイスラ リゾ - ト』でスキ - を楽しんできました。このスキ - 場はバンクバ - 空港から急行バスで約2,5時間の近さで、北米地区最大規模の大きさと雪質の良さを誇り、近年日本人の海外スキ - 派に人気の高いスキ - 場である。ゲレンデはウイスラ マウンテンとブラッコムマウンテンの2つのゲレンデで構成されている。その規模は日本の代表的なスキ - 場(八方尾根、苗場)と比べてもスケールが大きく、標高差、広さ、コ - ス数、コ - ス長、リフト数などでほぼ2倍の大きさである。又、スキ - 場は計画的に開発されたリゾ - トとしての機動性(タウンのまとまり、リフトのつながり、リフト

数、コースの配置など)が魅力で、滑り応えのある滑走コースを作り出している。コース数は約85コース。

基本構成はゲレンデのセンターであるラウンドハウスから上1/3はアルペンエリアのオフピステ(木が無いので基本的にはコースにとらわれずどこを滑っても良い)で新雪が楽しめる区域である。下2/3は林間コースでロングクルージング(長距離滑走)が楽しめる。

リフト運行は8:30~16:30まで、料金は21000円/4日間(今回の滑走は正味4日間)である。

バンクバは人口約55万人でカナダ第3番目の大きさの都市、成田空港から飛行機で8時間半と日本から比較的近く、市街地には近代的な都市文化の中にも緑が多く落ち着いた雰囲気と治安の良さ、新鮮なシフドのサービスなどで、人気が高く日本からの旅行者も増えているようだ。

今回のスキーツアは40年来の友人3人と3年ぶり2度目のウイスラスキーツアの実施であり、ホテルの予約はリフト乗り場に5分以内で行ける所で安いホテルをインターネットで予約した。

又、エアチケットはJTB, HISS, 近ツ3社の相見積りで一番安い時期を選んで決めた。

## 本説 毎日の過ごし方と滑走の記録

1日目 2/23(月) 晴れ 自宅発10:30 今回の旅は荷物が多いので成田空港へのアクセスは乗換えがなく楽な、町田からのリムジンバスを利用した。空いていて乗り心地も良く快適である。

渋滞を考慮し、早めの出発で17:00発のエアカナダ002便には余裕を持った空港到着である。フライト機は中型機のためか満席状態、いつもの様にビールを飲んで早めに寝る事が出来た。5時間位の睡眠の後、現地時間で7:30ごろ目が覚めた。9:10にバンクバ空港着。バンクバは曇りだが気温が高く東京と同じく暖冬気味である。入国審査は簡単に済み、荷物の出もスムーズで運良く10:00のウイスラ行き急行バスに乗る事ができた。12:30にウイスラに到着、リフト乗り場まで歩いて3分の所に在る『クリスタルロッジ』に入る、昼食後くつろいで過し、14:00にチェックインした。夕方まで一休みしレンタルスキの確認、レストランの予約、食料品の買出し(お酒やつまみ、果物など)、朝食



をするパフエや初めてのレストランの探索を行った。夕食は『ケッグ』と言う大衆酒場的レストランでサモンと蟹のから揚げを食べた。

日本人スタッフも居り気楽に楽しく過す事が出来た。ホテルに帰りウイスキーで深酔いし、時差の疲れも重なり21:00頃に就寝し、いびきの三番叟が始まったようだ。

(夜中に起きたとき自分以外の人は大いびき 翌日友人から同じ事を聞いた)

\* 以下、1日のウイスラリゾートにおける行動の基本パターンは次の通り。

起床7時前後、朝食は軽食パフェか部屋(マケットで買った)でクロワッサン、バナナ、牛乳、スープなど。滑走スタトは8:45前後とし、10:30の休みまでメンバと一緒に滑走と決めた。以降レストランまでフリ滑走。中休み、昼休み、午後の休みなどは時間と場所を決めて一緒に休んだ。昼食はピザ、クロワッサン、サラダ等とホットアップルサイダ『これが美味しくて土田のお勧めドリンク』、休息は年齢と体力を考慮して長めに取るようにした。入浴の後、ささやか宴席は反省会もかねて毎日21:30前後まで話し込んでいた。

## 2日目2/24(火) 薄曇&霧

最初はウイスラ ビレッジゴンドラ(長さ約3500m、標高差1157m)に乗りゲレンデの中心であるラウンドハウスへ、そこからザ・ピ・クリフト(約1200m、標高差400m)に乗りゲレンデトップへ、天候は曇りのため景観は良くなかった。しかし、標高2182mのゲレンデトップはさすがに雪質が良く、記念写真を撮るのもそこそこにザ・サドルと呼ぶアルペンコースを滑り出した。午前中はジョリ グリ - ンジアイアンツで足慣らし、このコースは幅が広く曲がりくねっていて適度な変化があり、斜度は手ごろ、滑っていて飽きが来ないので人気があり混雑している。

午後からはメンバ - と分かれて変化の多い林間コースのタ - ミガンを飛ばした。コース幅は少し狭く斜度もあるからか空いていて気持ち良かった。レストランは15:30にロア・オリンピックを3人で滑った。ゲレンデ下部は雪質が悪く、疲れも限界か足が笑っていて最後はつらかった。夕食は高級シ - フ - ドレストランの『アレクシ 』で大きなロブスタ を食べた、ワインは勿論白ワインを頂いて大満足であった。

## 3日目2/25(水) 小雪

午前中はラウンドハウスからすぐ下のジョリ グリ - ンジアイアンツとタ - ミガンを楽しんだ、新雪は5cm位で少し物足りないが気分は悪くなかった。ラウンドハウスでの昼食時、日本からの観光ツアーの人たちと会った、スキ - ではなくバンクバ - の観光とウイスラ 山に雪を見に来たと話していた。又、韓国からの同じような内容で来た観光客にも会った。

午後から一人でデ - ブマレイダウンヒルを滑った。このコースは2010年冬季オリンピックの男子滑降コースに予定されており日本では体験出来ないハードなコースである。特にコースの中ほどにある2箇所の大壁は長く急峻なため苦戦の連続であった。レストランは16:00に1人でデ - ブマレイダウンヒルと途中からベアパウに入り下ったが、ゲレンデ下部は今日も雪質が悪く、疲労感は強かった。夕食は『焼肉ビレッジ』でステーキを食べた、カナダ人の板前が日本風の着付けで、各種のパホ - マンスを行い、目の前の鉄板でステーキを焼く方式が大いに受けた。勿論、味も美味しく赤ワインと日本のビールを頂いてかなり酔いました。

## 4日目2/26(木) 雪

今日は1回だけピ - クからサドルを滑り、下に繋がるフランツ・ランを楽しんだ。このコースは冬季オリンピックの女子滑降コースに予定されている所で、我々のレベルに会う斜度とうねりと幅を持っており、長い距離を休まず滑ることが出来てスキ - の醍醐味を堪能出来た。特に朝一のファ - ストランは10cmの新雪(我々のシュブ ルが最初 気持ちいい)を滑ることが出来てうれしかった。途中、自分のシュブ - ルをバックに自慢げな顔で写真が撮れて、さらにご機嫌であった。この日は一日中フランツ・ランを滑り、レストランは16:20に1人でデ - ブマレイダウンヒルと途中からベアパウに入り下ったが、ゲレンデ下部は雪質もかなり良く、疲労感は少なかった。夕食はこのツアーで一番高級なレストラン『ハイズ』でアルバ - タ産牛の本格ステーキ(厚肉で油が少なくやわらかい)を食べた。ご馳走様でした。

夕食後リカ ショブでウイスキー - と土産のメイプルシロップを買った。(こう言う物はリカ ショブとかマ - ケットが安くていいなと思った)

## 5日目2/27(金) 晴れ

今日は滑走最後の日でフランツ・ラン、デ - ブマレイダウンヒル、ベアパウを交互に滑った。天気が良く気温が高いために雪質是最悪(今回のツアーでは良い雪質の日が少なく全体的に日本と変わらない雪質、残念)で体力不足を感じた。その中でベアパウはコース幅も狭く木が生茂っているので日陰が多く比較的滑りやすかった。

お昼はリフト乗り場の小さなショップでホットドックを食べた、パンが大きくてたっぷりのケチャップとマスタードをかけたソーセージは美味しく最高の味でした。雪面の中のパラソルの下での屋台村的食事は良い思い出となった。又、食事のおこぼれを狙って小鳥が寄って来るがこの鳥の名がウイスキー-ジャックと言うそうだ。そして、滑走コースにも斜度はゆるいがウイスキー-ジャックと言う名前のコースがある。嬉しくなりますな。滑走最終日なので16:30まで滑った、ラストランはベアパウを大いに飛ばしてウイスキーの良さを満喫した。グレンデ下部では雪質の悪さと疲れが重なって足の筋肉はパンパンに張っていた。

夕食は地ビールの『ブリュハウス』でチキンの照り焼き、大き目の太ももにソースがしみ込んでいてなかなか美味しかった、地ビールは甘口で私の口には合わなかった。

このお店は地ビールの専門で、他のビールは置いてなかった。日本人があまり来ない店のようでウェイターが日本人に慣れていない為か、私の得意とする土田式イングリッシュが通じにくく困った。又、話し方も早口なので聞き取れず、ポピュラーなビールは無い事が分からなかった。

### 6日目2/28(土)曇り

6:30起床、部屋での朝食は昨夜のドギ-バッグ(チキンとピザ)やミルクなどで軽く済ませた。8:05の急行バスに乗りバンクバ-のセントラに10:00に着いた。ここからタクシ-で5分位の所のホテル『ホリデ-インダウンタウン』に10:30頃着、何故か知らないがチェックインできた。休む間もなくレストランの予約と観光、買い物の為、中心街のロブソン通りまで15分位歩いた。

『スタバックスコ-ヒ-』で軽い食事をした後、市内周遊観光のクラシックなバス『トロリ-』(トロリ-バスではない)に乗った。バスのル-トはロブソン通り、スタンレパーク、グランビルアイランド、中華街、ガスタウン、等、約2時間でル-トを一周するものである。私は途中でバンクバ-発祥の地ガスタウンに降り、ウインドウショッピングや買い物をした。夕食はシ-フ-ドの三ツ星レストラン『ジョ-フォ-テス』でサ-モンステ-キとオイスターを食べた、ワインはここでも白ワイン。帰りにバラ-ド通りにある大きなマ-ケット『プライス』で鮭の缶詰を買ったがお土産専門店より2割くらい安かった。バナナや牛乳、つまみも買ってホテルに帰り、残りのウイスキー-でカナダ最後の夜を深酔いで過した。

疲れたけど楽しかったな-

### 7日目2/29(日)小雨

8:00起床部屋で朝食を取り、10:00のチェックアウトまで寛いで過した。10:30にタクシ-で空港へワンボックスタイプの車でスキ-の板も難なく収まり便利である。空港までは約20分で到着AC001便は14:00のフライト、時間をもてあまし、酔いながら居眠りばかりしていた。

機内はほぼ満席、例によってビールを頂き6時間くらい寝ることが出来た。

### 8日目3/01(月)曇り

成田空港に少し遅れて17:50着、成田は当日雪だったようで5cm位の積雪であった。入国審査、税関共にスムーズに進み、18:45発の町田行きリムジンバスに乗れて、21:15我が家にお疲れさん。



## 後説 反省と参考項目

(1) 時間の使い方に課題が残った。ウイストラ リゾートに着いた日とバンクバ - から帰る日の具体的な計画がなく単に街の下調べ、空港での時間待ちなど無駄な時間の使い方であった。  
(2) 滑走技量のレベルに多少の差があり個人的に滑る時間が多くなった。単にガリガリ滑るだけでなく、皆で楽しめるものは何かを考えることも必要である。(体力が持たない)  
(3) メンバ - と分かれて滑るとき、待合せ場所、時間を決めてそれを守ったのは良かった。  
(4) エアチケットも直行便だけの見積もりでなく、時間を有効に使ってアメリカ経由などの案を検討すべきである。

(5) 酒はカナデアンウイスキ - の『クラウンロ - ヤル』がお勧め、マイルドで深みのある上品な味のウイスキ - でやや赤みを帯びた透明で琥珀色の感じが私は好きである。

(6) 今回も小さな、いさかいはあったが何はともあれ、大いに飲んで、楽しく騒ぎ、又、今度も仲間の絆を深める旅となった。

(7) スキ - スク - ルも盛んに行われていた、黄色いやっけのインストラクタ が頑張っている。又、安全に対する配慮は素晴らしいものがある。(掲示板、交差部スロウダウンの表示など)

(8) やや気温が高めで雪質は良くなかったが、長い距離を滑りスキ - の楽しさを大いに堪能した。

急斜面では苦戦したが体力的にもある程度、耐えられたので今後も体力の維持、又は、増強に励みたい。そして来シ - ズンも国内のスキ - ツアを企画し楽しみたい。

今回カナダスキ - の記は技術報告のような文書にしました。ごめんなさい。

## 新緑の箱根の旅

中野 千恵子

今年 ラマさんが日本に来たら、是非皆さんと一緒にどこかに行きたいと思い計画をたてさせて頂きました。場所も日にちも、参加が大勢できる所と考えました。

そして、箱根となりました。人数もだんだん増え、途中で旅館を変えるなど、嬉しい悲鳴でした。しかし、せっかくの箱根は雨、霧、など最悪の旅。バスの運転手はカーブの道を飛ばすので、気分のすぐれなくなった人にはまたまた最悪。元箱根では芦ノ湖も見えないので、昼食後、近くの成川美術館を見学、眼の保養をし、また、バスに乗り、今夜の宿、橋に行きました。ゆっくり、お湯につかり、夕飯のはこびとしました。一人ずつ、今年の抱負やカラオケ等、まあまあ、楽しい一時を過ごしました。ひとつのイベント?として青沼さんの誕生日の祝い、小さな、小さなケーキと野の花のプレゼント等。いつもと違う皆さんの事が解りました。よかったですと思います。

翌日も天気は余り良くなかったのですが、取り合えず、登山電車に乗り、行けるとこまで行こうと言う事で、強羅まで、行きケーブルカーに乗り換え早雲山まで、行きました。ロープウェイは風のため、運休。青沼さんが会社の人に声をかけてくれ、ロープウェイ代、観光船代が返金、そのお金で箱根美術館に見学出来ました。、またまた、眼の保養です。庭の苔の緑の綺麗な事。皆さんも思いでの旅となった事と思います。



# 休日の夢

大谷 安宏

入梅まじかの薄日の差す穏やかな日だ。向かいの家の屋根の雀は子育てに忙しく飛び回り、机の上にはラマさんを迎えての箱根懇親会で買ったマザーリーフの7つの芽が逞しく伸び始めている。ここ2~3ヶ月兎に角忙しい日が続いき、些かバテ気味で3日ほど意識的に何のスケジュールを入れず、気の向くままに殆どを自分の部屋で過ごしてみた。

確かに現役時代を振り返ってみても毎年3~5月は年度替りで本社への実績報告、海外を含む関連会社との調整業務、棚卸、年度計画立案、方針発表、組織変更、定期総会、金融機関・関係官庁への挨拶回りなど繁忙を極める時期であったが、今年はネパール教育支援の旅、ラマ氏の来日、ミカの会総会・懇親会、町内会総会・研修旅行、OB会、小学校同窓会、高知の作品展、大倉山作品展に合わせたの船友会、三つのスケッチ画サークル、そして市主催の和弓、シルクロード美術講演会、恒例の兄姉との旅行などが続き、高い料金を払っているスポーツクラブのプール、サウナもすっかりご無沙汰の状態であり、たまにサウナに行くと、受付嬢に「うちはお風呂屋さんじゃないですよ」と冗談を言われる始末だ。



自分の部屋は好みのものや懐かしいものに雑然と囲まれた一番居心地のいい所だ。女房も滅多に立ち入ることもないし、決して掃除はさせないことにしている。片付けられると、何がどこにあるか分らなり、大事なものでも捨てられては困る。20年ほど前に2年がかりで作った埃を被った帆船カテゴリーサークル、地球一周の船旅のCERTIFICAT、ハバナでヘミングウェイに似ていると煽てられ描かせた2\$の似顔絵、Oゲージの貨物列車、寝台特急”北星”と”あずさ”号、描き掛けのスケッチブックとパレット、壺

にいっぱい油絵用筆、三歳の時の孫の描いた絵、塩屋の娘の店”マドンナのいる雑貨屋”、昔描いた美大の学生のヌード、早池峰山を登る後姿の写真、ヤナトラ八校落成式に貰ったブツダの坐像、数々の山の本、五万分の一の地図、ピッケルや錆びたハーケン、動かない高度計付腕時計と磁石、ネパール国旗、石ころや化石、カラヤンのCD、トロフィー、現役時代の愛用のカバン、最近あまり使わないジポーの数々、釣竿、加藤さんに促され引きずり出した錆びの出たフルーツなどなど自分にとっては懐かしく、大切な宝物ばかりだ。これらの中で一番点数の多いのは山登りや旅行先で拾ってきた小石や化石である。

若い時からの山登りでは登頂の記念にと頂上の小石を持ち帰っていたが、扱いに困りダンボール何箱を処分した。それがまた、何時の頃からか旅先の記念として一つの小石や建造物の欠けらを持ち帰り、化石を探し歩くようになった。

万里の長城、アンコールワット、パルテノン神殿、ポンペイの敷石、ピラミット、エルサレム聖墳墓協会などに加えて、タバコ一本で監視人の承認を得たカピラバストゥ城のレンガなどをポケットに持ち帰ることにしている。時には成田空港の通関時にバラバラと小石を撒き散らしてヒヤールとしたこともあった。

砂時計の砂のようなサハラ砂、死海から持ち帰った海水からの塩の結晶、カラパタル5600mの石、ムスタグ・アタ峰の水晶、前穂A沢を降り踏み変え点の休息中に偶然見つけた生まれたての細い水晶、ハレー彗星観測の際のマウント・クック氷河に磨かれた岩、キラウエアの溶岩、青沼さんの持ち帰って貰ったギニア高原のコケの付いた小石など。以前から化石を採取することに興味があった。日高山脈の二枚貝や花巻市での70年の年輪のあるもの、ラマさんと探したカリガンダキのアンモナイト、三陸海岸の蜘蛛入りの琥珀、思わず昆虫の羽根かときめいた豊沢湖のカエデの種子や広葉樹の葉などを、草の伸びる夏場は避けて、まだ水の冷たい川沿いの崖や沢筋をゴソゴソとゴーグルに胴長、ハンマー、ルーペを持ってあちこちを探し回り、地元の人に「何やってんだあ」と訝られたことは何度もあったし、夢中になり車を停めた所に戻れずに地元の人にバイクに乗せて貰い探し回ったこともあった。見知らぬ土地での人との触れ合いも楽しい思い出になる。振り下ろしたハンマーが何万年もの間、閉ざされていた化石に太陽の光を浴びた瞬間の興奮はなんとも言えない。ハンドブックで名前を調べるのも興味深い、今までに碌な物を見付けてはいない。昆虫や魚のものには是非チャレンジしたい。いつまで出来るやら!

これらの物は日付、採取地を付して幾つもの小さな飾り棚に整理してある。これらを一一つ眺めているとその時の風や匂いや仲間の会話まで思い返され、雑然とした部屋はひとり贅沢な思い出に浸ることができる宝物の詰まった自分の城である。机の上にパズルの地球儀がある。次は何処へ行き、何を観るかと問いかけている。また此処へ行ってみたい、今度は何処へと行こうかと次々と夢が生まれ、広がる場所だ。

うっ~ん。シルクロード。西安から酒飲みには堪らない地名の酒泉、憧れの敦煌、ロブノールでヘディンの「さまよえる湖」探し、ローランの美女、崑崙山脈とホータンのオアシス、懐かしの民族の十字路カシュガルでシシカバブー。ムスタグ・アタ峰下山後入院したウルムチの病院にも訪れたいし、世話になった美人の通訳にも逢いたい。寄れなかった海拔マイナス145mのトルファン、玄奘も訪れた鳴沙山、火焰山、数々の故城にもビスタリー、ビスタリーでスケッチをしながら歩いてみたい。来年のベストシーズンの冬かなあ!



ヌルブ・ラマさんを囲む会

箱根 2004・5・17



# ささやかな楽しみ

加藤 誠一

2004年3月第8次教育支援の旅そして同時期ケニアのA氏、スペインのI氏をネットで追う。必ずしも毎日連絡がとれなくても良い。いそがしくてそれどころではないと思う。むしろとれない日のほうが、想像力をかきたてる。

ネパールのインターネット事情、政情、バンダ。ケニアにパソコンは？スペインって英語のキーボード？日本語は文字化け？などなど。それぞれの事情を推測するだけで、一度に数カ国の旅に参加させていただきました。

特にマオイストの情報と突発的だったスペインの列車テロは非常に心配しました。

ローマ字で入力された文を見たとき新たな大きな感激をすることになりました。

みなさん無事に帰国された時には思わず自分の事のように思いました。タダでたくさんの国を楽しめました。このバーチャル体験、たかがメール一本が平和と混乱を生むことになるのです。使い方一つで殺人まで起こします。女子奨学生の殺人事件もありました。

私の言いたいのはネットもメールも使う人次第であるという事です。ハードの問題でなくソフトの問題です。パソコン教室はどうしてもハード面を多く勉強せざるをえません。

どうぞミカの会の会員の皆様にはコミュニケーションの本質を理解され楽しく、便利な世界を堪能して頂きたいと思います。

自分も含めて社会は高齢化を迎えます。ロッキングチェアにゆられ、紅茶の香りに包まれノートパソコンに映し出される世界遺産やクラシックの調べ、花や鳥、星座の調べもの、孫に写真メール、ビデオメールなどなど。銀行の管理や振込は当然になります。ネットショッピングも益々盛んに成るでしょう。テレビやラジオの情報に加え自らの意思で想像を超える情報を得ることが出来ます。その情報の選択も又自らの責任で行います。

話はとびますが、数年後には毎年1ヶ月くらいはネパールで過ごしたいと計画をすすめています。ポカラのプール付きホテルで1ヶ月食事付きで7-80000円程度。病院などの施設もまずまずのようです。ペア湖のほとり、アンナプルナの山々をのんびり眺めながらのんびり過ごしたいと思っています。好きな写真を撮り、フルートの練習をし、日本の皆さんとネットで会話。その節は皆さんにも声をかけますのでご一緒しましょう。

そんな夢も最近の年金問題やイラクの問題など不安定な状況を国民に押しつけている政府の誠実さのない対応を見ていると、いささか不安になります。吹けば飛ぶような零細企業ですが卒業してから山有り谷ありの波瀾万丈の日々でした？（今でも）そんな自分への褒美にささやかな夢を叶えようとがんばっている今日この頃です。

## 【編集後記】

今回は12ページとボリュームたっぷりです。NPO法人取得後初めての総会、ラマさんの来日と重要なイベントが続きました。ネパールの政情は困難を極めています。教育支援の旅、中間調査も冷静に状況を判断しなければなりません。イラクでの自己責任論など、ボランティアだからという甘えは許されません。心して事にあたりましょう。

ミカの会のホームページが新しいドメインになりました。リニューアルされたホームページどうぞ、有効にご利用下さい。

NPO法人ネパールミカの会ホームページ <http://nepal-mika.jp>

mika@ssr.co.jp

副会長 加藤 誠一

PS.メールアドレス新規に取得された方はお知らせ下さい。